Koyama Kotsu Kyoiku Service Press vol.86 2017 Dec.

質問も多数寄せられ、熱い講演会となりました。 第14回 特別講演会報告

自動運転をめぐる最近の動向と警察庁の取り組みについて

警察庁交通局交通企画課　自動運転企画室長　杉 俊弘

自動運転で「世界一安全な道路交通」の実現へ

第10次交通安全基本計画では、平成32年までに、「24時間死者数を2,500人以下とし、世界一安全な道路交通を実現する」、「死傷者数を50万人以下にする」という2つの目標が掲げられています。
これらの目標を達成するためには、これまでの対策に加え、自動運転や運転支援システムなど、先進技術の活用推進がカギになると考えています。

自動運転に対する警察庁のスタンス

自動運転技術については、将来の交通事故の削減、渋滞の緩和等に不可欠な技術であり、また、高齢者等のモビリティの確保という点でも大きな期待が寄せられています。
警察庁は、自動運転の実現に向け、その進展を支援する観点から各種取組を実施しています。

自動運転のレベルの定義

自動運転のレベルについては、米国のSAEレベルというのが統一的に使われています。
ドライバーが運転し、アクセル、ハンドル、ブレーキの前後の動き、左右の動きのいずれかを自動運転システムがサポートするのがレベル1、前後左右両方のサポートをするのがレベル2です。
レベル3は、アクセル、ハンドル、ブレーキを全てシステムが行い、システムが要請した時のみドライバーが運転するものです。レベル3で、システムからの要請があるまでは、ドライバーの注意義務、監視義務が外れることになります。
レベル3以上では高速道路とか限定された地域などの制限の下で全ての運転をシステムが行い、ドライバーは全く関与しません。その中で、緊急時でもシステムが対応するのがレベル4で、いかなる環境下でも全ての運転をシステムが行うものがレベル5です。

自動運転の実現に向けた警察庁の取組

警察庁では、自動運転に関する具体的な技術開発の方向性を常に確認しながら、導入過程における安全確保を図りつつ、法制度面の検討を含め、自動運転の段階的実現に向けた取組を推進しています。
平成27年10月から、有識者を交えて、自動運転の実現に関する法制度面を含む各種課題について検討を行うとともに、国内において自動運転に係る公道実証実験が行えるようにするためのガイドライン等を策定・公表しました。
また、国際条約に関し、我が国が締約している道路交通に関するジュネーブ条約では車両には運転者がいなければならないことなどが定められており、運転者が存在しない形態の自動運転を実現するためには、国際条約との整合性を図るための措置が必要となると考えられるところ、国連での議論にも積極的に参画しています。
さらに、自動運転システムの実用化に向けた研究開発に関し、SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）という枠組みの中で、自動車が信号情報等をリアルタイムに認識し、制御を行えるよう信号情報等を提供する路側システム等の研究開発を実施しています。

今後の実用化に当たって検討すべき課題

現在、全国各地で自動運転に係る実証実験が行われており、それらの結果も踏まえ、自動運転技術はより進歩していくことになりますが、自動運転の実用化に当たって、より具体的に検討しなければならない課題もあります。
交通法規等の在り方もその一つであり、今まさに検討が行われているところです。例えば、レベル3の車が自動運転モードで走行しているときに、セカンダリアクティビティ、すなわち運転以外の活動をどの程度していいかという問題があります。緊急時に、システムから「運転を交代してください」と警報が鳴って、運転者が対応をしなければならないわけですから、何をしていてもいいということにならないのだと思います。

運転者教育の必要性、重要性は今後も変わらない

自動運転社会の到来を見据え、運転免許制度について様々なご意見やお考えがあるようですが、今後の運転免許制度を考える際に大切な観点は、自動運転車の内外にいる人に対して、いかなる行為と責任が求められて、そのためにはどのような知識と技術が必要かということだと思います。
今後自動運転技術が進歩しても、運転について人が何らかの判断や関与をしていくという場面がある限りは、そのレベルや内容に違いはあっても、必要な知識や技術は必ずあり、運転者教育の必要性、重要性は変わらないのです。

懇親会のクイズ大会は大接戦

講演終了後は名刺交換会と懇親会。恒例のコヤマドライビングスクール長期研修生「轟会」メンバーによるクイズは、3チームがトップで並び、決勝問題に挑みましたが、なんと3チームとも不正解。じゃんけん対決となりました。ブービー賞もじゃんけん対決でしたが、ブービーメーカーだけはぶっちぎりで決定しました。
最後は手話ダンスステージ。当社営業スタッフのユニット・KKエンジンは新メンバーを加え、「銀河鉄道999」をご披露しました。

特別講演会に参加して

最新の情報を得ると同時に大切な基本に立ち返る、いい機会をいただきました。

金津自動車学院(福井県)　取締役　木戸 佐恵子

私は、子育てを終えて11年前に家業である当社に入社しました。
受付、電話応対等、常にお客様と接する仕事なので「気配り」「目配り」を心掛けているつもりでした。しかし、マナー推進協議会のＤＶＤ「良いマナー・悪いマナー」を視聴して、もう一度、マナーを再確認するためにも職員の研修にぜひ活用したいと思いました。
講演会は自動運転に関するもので、私にとっては、大変難しい内容でした。自動運転は、交通事故を減らすためにも必要であり、2020年東京オリンピックパラリンピックでは実験車両（タクシーやバス）が走るであろう、ということです。そうなると、これからの自動車教習所の役割やカリキュラムは…？
まだ先の話ではありますが、今後の運転免許制度の変化も暗示する貴重な講演内容でした。

今回、初めて特別講演会と懇親会に参加させていただき、有意義な機会を与えて下さったコヤマ交通教育サービスの方々には大変感謝しております。スタッフの皆様からもパワーをもらいました。本当にありがとうございました。